

香川高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語 I
科目基礎情報						
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	一般教育科 (託問)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	精選国語総合 三省堂					
担当教員	富士原 伸弘					
到達目標						
1. 現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方を完全に理解できる。		現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方を知る。		現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方が全く理解できない。	
評価項目2	正しい日本語で表現するための基礎を完全に身につける。		正しい日本語で表現するための基礎を身につける。		正しい日本語で表現するための基礎を身につけることができていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代文・古文・漢文をバランス良く学び、日本文化についての理解を深める。授業発表などを通じてコミュニケーション能力の育成を行う。					
授業の進め方・方法	教科書を基に、講義と論述・発表演習を行う。					
注意点	特に、文化への理解や、他者とのコミュニケーションの達成に重点をおいて授業を進める。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス解説 評論「水の東西」 古文入門・漢文入門		物事の核心を把握する方法を身に付ける。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		2週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門		物事の核心を把握する方法を身に付ける。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		3週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門		物事の核心を把握する方法を身に付ける。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		4週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門		物事の核心を把握する方法を身に付ける。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		5週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門		物事の核心を把握する方法を身に付ける。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		6週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門		物事の核心を把握する方法を身に付ける。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		7週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門		物事の核心を把握する方法を身に付ける。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	テスト返却と解説 国語表現概説		自分の考えを正しく表現できる。	
		10週	評論「コインは円形か」 古文「竹取物語」・漢文「漢詩」		自己の主張を的確に展開する力を養う。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		11週	評論「コインは円形か」 古文「竹取物語」・漢文「漢詩」		自己の主張を的確に展開する力を養う。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		12週	評論「コインは円形か」 古文「竹取物語」・漢文「漢詩」		自己の主張を的確に展開する力を養う。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		13週	評論「コインは円形か」 古文「竹取物語」・漢文「漢詩」		自己の主張を的確に展開する力を養う。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		14週	評論「コインは円形か」 古文「竹取物語」・漢文「漢詩」		自己の主張を的確に展開する力を養う。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		15週	評論「コインは円形か」 古文「竹取物語」・漢文「漢詩」		自己の主張を的確に展開する力を養う。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		16週	テスト返却と解説			
後期	3rdQ	1週	プレゼンテーション演習		データを効果的に説明する力を養う。	
		2週	評論「なぜ私たちは労働するのか」 古文「土佐日記」・漢文「推敲・雑説」		日本人の思考を知り、文化について考える。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		3週	評論「なぜ私たちは労働するのか」 古文「土佐日記」・漢文「推敲・雑説」		日本人の思考を知り、文化について考える。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		4週	評論「なぜ私たちは労働するのか」 古文「土佐日記」・漢文「推敲・雑説」		日本人の思考を知り、文化について考える。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		5週	評論「なぜ私たちは労働するのか」 古文「土佐日記」・漢文「推敲・雑説」		日本人の思考を知り、文化について考える。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		6週	評論「なぜ私たちは労働するのか」 古文「土佐日記」・漢文「推敲・雑説」		日本人の思考を知り、文化について考える。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		7週	評論「なぜ私たちは労働するのか」 古文「土佐日記」・漢文「推敲・雑説」		日本人の思考を知り、文化について考える。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。	
		8週	中間試験			

4thQ	9週	テスト返却と解説 文章表現概説	自分の考えを正しく表現できる。
	10週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。
	11週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。
	12週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。
	13週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。
	14週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。
	15週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。
	16週	テスト返却と解説 ディベート演習	発言者の意図を正しく理解できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	2	
			代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	2	
			文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	2	
			文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	2	
			鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をととして、感受性を培うことができる。	2	
			読書習慣の形成をととして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	2	
			現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用語、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	2	
			代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	2	
			古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	2	
			代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	2	
			教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	2	
			情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	2	
			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	2	
			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	2	
			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	5	0	0	0	5	100
基礎的能力	90	5	0	0	0	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0